

2026

全学共通教育科目
GUIDEBOOK
Itabashi Campus



生きぬく技を身につける

私らしい道で

生きぬく技を身につける

現代社会は変化が激しく予測不能なVUCAの時代といわれています。「唯一の正解」は存在せず、学んだ知識もどんどん新しいものにアップデートされていきます。このような社会では、高い専門性に加えて時代に応じた幅広い教養が必要不可欠です。そのため、東京家政大学の全学共通教育科目では、建学の精神（自主自律）と生活信条（愛情・勤勉・聡明）を中心とした「時代を超えた普遍的な人間性（ヒューマニティー）」を核として、現代社会で必要とされる知識・スキルをすべての家政大生が共通して身につけます。そして、これらを専門教育科目の学びと融合させることで、専門分野の枠を超えた新しい価値の創造を目指します。

東京家政大学における「全学共通教育科目」は、本学が育ててきた人間性（ヒューマニティー）の科目を核として、現代社会を生きぬく5つの技を身につけるための〈ダイバーシティ&インクルージョン〉、〈サステナビリティ〉、〈グローバル・コミュニケーション〉、〈データサイエンス×デザイン〉、〈ヘルス&ウェルビーイング〉で構成されるカリキュラムとなっています。

全学共通教育科目

専門教育科目

学びの
ポイント

01. 人生に必要な普遍的な力を身につける
02. 現代社会に必要な知識とスキルを身につける
03. 自身の専門的な学びに、さらなる価値と実行力を付加する
04. 学部・学科の枠を超えて、横断的に学べる

ヒューマニティー

Humanity

自主自律の精神を核として、現代社会をしなやかに生きる人間力を育むための科目群

ダイバーシティ&インクルージョン

Diversity & Inclusion

多様なものを受け入れ尊重し、共生社会を創る力を養うための科目群

サステナビリティ

Sustainability

持続可能な未来社会を創造する力を養うための科目群

グローバル・コミュニケーション

Global・Communication

多文化共生の場面で人々とかかわる力を養うための科目群

データサイエンス×デザイン

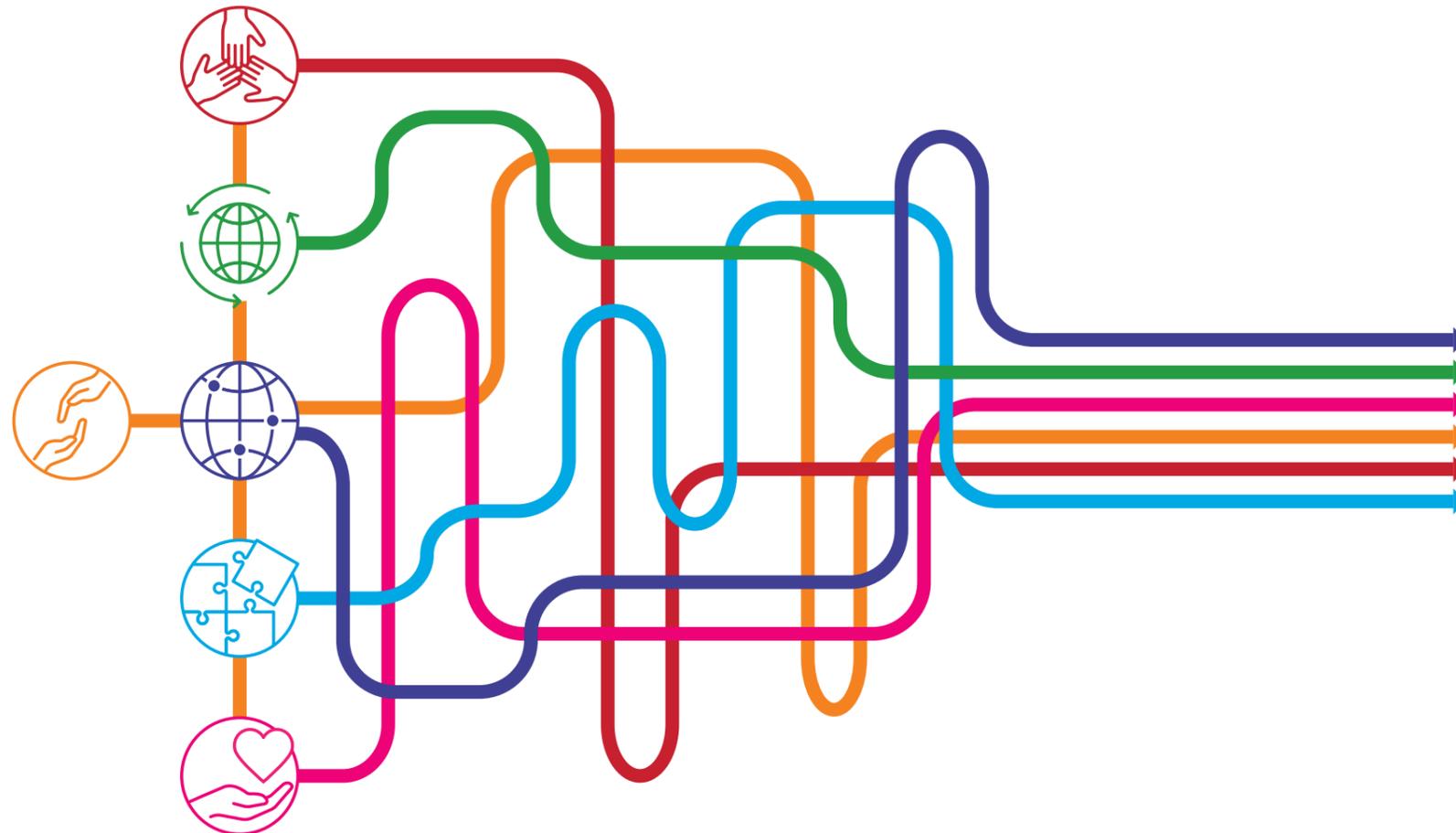
Data Science × Design

社会課題に取り組み、新しい価値を創造する力を養うための科目群

ヘルス&ウェルビーイング

Health & Well-being

人々の心身の健康とウェルビーイングを実現する力を養うための科目群



自他の可能性を拡げ、
人がつながる社会へ

INDEX

- P 01 生きぬく技を身につける〈6つの学びの分野〉
- P 02 INDEX
- P 03 全学共通教育科目・抽選科目の履修について
- P 04 ヒューマニティー
- P 11 ダイバーシティ&インクルージョン
- P 16 サステナビリティ
- P 20 グローバル・コミュニケーション
- P 25 データサイエンス×デザイン
- P 28 ヘルス&ウェルビーイング
- P 32 人間力育成実践科目〈キャリア形成支援講座／実践力養成セミナー A・B〉
- P 35 人間力育成実践科目〈Kポイント8〉
- P 38 教職課程科目

ガイドブック略称・表記について

各科目の一覧表の表記について		
単位数	数字のみ	講義
	[]	演習
	()	実験・実習及び実技
標準開設年次	◎	通年
	○	前期または後期
	◇	閉講期がクラスによって異なる
		他学年履修可能(履修者数等の関係で許可されない場合もある)
他学科		

教必	■幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状 必修
	■中学校教諭一種・二種免許状・高等学校教諭一種免許状 必修
	■栄養教諭一種・二種免許状 必修
	■養護教諭一種免許状 必修
教選必	■幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状 選択必修
	■中学校教諭一種・二種免許状・高等学校教諭一種免許状 選択必修
	■栄養教諭一種・二種免許状 選択必修
	■養護教諭一種免許状 選択必修
公教必	■高等学校教諭一種免許状(公民) 必修
社教必	■中学校教諭一種免許状(社会) 必修
家教必	■中学校教諭一種免許状(家庭)・高等学校教諭一種免許状(家庭) 必修
保育士必	■保育士資格 必修
保育士選必	■保育士資格 選択必修
保育士選	■保育士資格 選択
図書必	■図書館司書資格 必修
社教主選	■社会教育主事基礎資格 選択

全学共通教育科目 | 履修について

1. 全学共通教育科目は**必修科目・選択科目を含めて24単位以上**の修得が卒業要件となっています。

2. 分野ごとの修得単位数

(表1)	分野	修得単位数
	ヒューマニティー	6単位以上
	グローバル・コミュニケーション	4単位以上
	データサイエンス×デザイン	2単位以上
	ダイバーシティ&インクルージョン	2単位以上
	サステナビリティ	2単位以上
	ヘルス&ウェルビーイング	2単位以上

3. 履修者数が5名以下の場合は、原則として開講しません(必修科目と免許・資格取得に関わる科目を除く)。

抽選科目 | 履修について

1. 履修人数制限のある科目(抽選科目)は、履修登録時に抽選方式で履修者を決定します。そのため、希望をしても履修できない場合があります。

2. 抽選科目は、木曜日の1・2・3時限に開講されます(メディア授業を除く)。履修登録の際は時間割表を確認し、専門教育科目と重ならないように注意してください。

***1年生は、前期の「スタートアップセミナー自主自律」の時間と重ならないように注意してください。**

3. 抽選で当選した科目の履修取消はいかなる理由においても認められません。

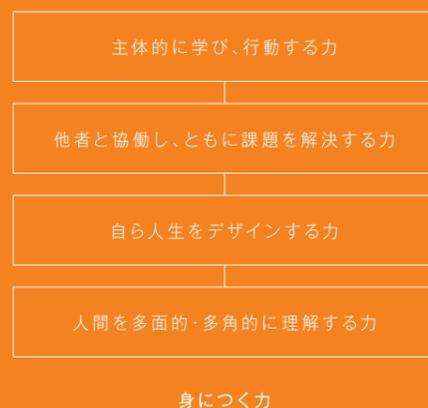
4. 同一科目が複数クラスに分かれている場合、講義コードが異なります(表2参照)。履修登録をする際は、いずれか一つの講義コードを選択してください。manaba登録の際は、履修登録した講義コードと同じことを確認し登録してください。

(表2)	開講期	講義コード	講義科目名	担当者名	備考
	前期集中	7001	家政学原論	A	メディア授業
	前期集中	7002	家政学原論	A	メディア授業
	後期集中	7003	家政学原論	B	メディア授業

*詳細については、この他に「[学生便覧](#)」「[シラバス](#)」「[履修ガイド&時間割表](#)」「[ポータルの手引き](#)」を参照してください。

自主自律の精神を 核として現代社会を しなやかに生きる人間力

〈ヒューマニティー〉では、時代を超えた人間性を育むことを目的として、自主的・自律的に生きる力、自ら考えて学び意見を述べる力、社会との関わりを考える力、他者と協働する力、そして自らの人生をデザインする力です。ヒューマニティー領域の中核をなす〈コア科目〉として、4つの必修科目「スタートアップセミナー 自主自律」、「基礎ゼミナール」、「キャリアデザイン I」、「キャリアデザイン II」が開設されています。それ以外の科目では、「人間」、「生活」、「人生」などのテーマについて、家政学、哲学、心理学、文学、芸術などの学問領域の学びを通して理解を深め、しなやかに生きるための力の育成を目指します。



【抽】…抽選対象科目

区分	科目名	メディア授業	単位数	必選別	標準開設年次				開設学科・専攻															
					1		2		3		4		服美	表現	栄養	管理	児学	育支	初教	英コミ	心カ	教福	社会	文化
					前	後	前	後	前	後	前	後												
コア科目	スタートアップセミナー 自主自律		[2]	必	○					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	基礎ゼミナール ※1		[2]	必	○					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	キャリアデザイン I ※2		[1]	必				○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	キャリアデザイン II ※2		[1]	必				○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
ヒューマニティー	【抽】 家政学原論	○	2	選				○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	【抽】 哲学		2	選				○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	【抽】 心理学	○	2	選				○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	【抽】 生活経営学		2	選				○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	家庭経営学		2	選	○					○	○													
	【抽】 芸術論		2	選				○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	【抽】 子どもの世界		2	選				○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	【抽】 人間と学びA(心と行動の科学)	○	2	選				○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	【抽】 人間と学びB(学び方を学ぶ)		2	選				○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	【抽】 人間と学びC(文学と人間)		2	選				○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	【抽】 人間と学びD(子どもと芸術をめぐって)		2	選				○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	【抽】 人間と学びE(しなやかな心とからだ)		2	選				○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
【抽】 人間と学びF(美しい文章の書き方)		2	選				○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		

〈履修の詳細については学生便覧、時間割表などをご確認ください。授業内容の詳細についてはシラバスなどをご確認ください。〉

※1 開講期は学科・専攻によりことなる

※2 開講年次・開講期(通年隔週を含む)は学科・専攻によりことなる

Message ヒューマニティー部門長 佐藤隆弘

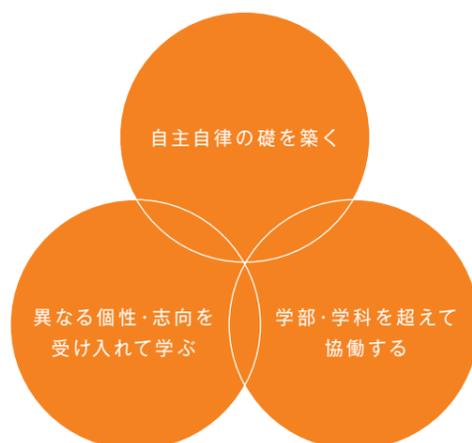
この領域では「自主自律」の精神に基づき、主体的に考え、仲間と協働する学びを通して、人間・社会・文化・生活への理解を深めます。さらに、自分の未来をデザインする力を育むことも目指しています。この学びを通して「人間って何だろう?」「自分はどうか生きるか」について探究し、未来への一歩を踏み出しましょう。

スタートアップセミナー 自主自律

私立大学(私的な組織)には、その創立の目的・理念である独自の「建学の精神」があります。東京家政大学における建学の精神は「自主自律」です。その「自主自律」を貫くうえで大切な日々の生き方は、愛情・勤勉・聡明という生活信条として表現されています。一人ひとり異なる個性を持つ個人(私)が、自らの多様性に合致した学びの“場”として、東京家政大学を選んで入学しています。学部・学科が異なれば興味や志向性も異なり、将来の目標も多様です。この授業はそのように異なる個性を持つ個人(私)同士が、学部・学科を超えて共に「自主自律」の礎を築くことを学修目標とした初年次教育コア科目です。

この授業には大きな特徴が二つあります。一つは、異なる学科の学生5名程度でグループを作り、目標達成のために互いに協働して学ぶ点です。最初の授業では、協働で学習を行うためのポイントを共有します(グループ活動に苦手意識がある人も安心して臨めます)。その後、東京家政大学の歴史を学びながら「自主自律」の礎を意識したところで、社会に向き合うプロジェクトに取り組みます。14回の授業を終えるころには、東京家政大学生同士の絆が生まれ、一人ひとりが自主自律の道を歩み始める準備ができています。

特徴の二つ目は、上級生がスチューデント・アシスタント(SA)として協働学修をサポートする点です。学修者は、SAである先輩の姿に進級した自分の未来像を重ねながら協働学修に取り組むことになります。



ここがポイント!

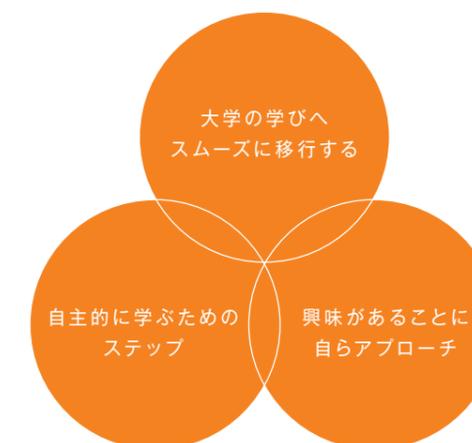
異なる学科の学生5名程度でチームを作り、目標達成のために互いに協働して学ぶ科目です。学生一人ひとりが主体的に学ぶことを大切にします。上級生がスチューデントアシスタントとして授業を補助することも、この科目の大事な特徴です。

基礎ゼミナール

本科目は、「スタートアップセミナー自主自律」と並んで重要な初年次教育科目であり、高校での学びから大学での学びへスムーズに移行することを目的として開講されます。また、「基礎ゼミナール」は「スタートアップセミナー自主自律」、「キャリアデザインI」、「キャリアデザインII」とともに全学共通教育科目のコア科目として位置付けています。

高校での学びは、どちらかというと受動的に知識を吸収することを求められることが多かったのではないのでしょうか。大学では、学修の目的と意味を考えて、興味のあることに自らアプローチして研究し、発信することが求められます。そのため大学の教員はみなさんと同じ目標(平均的な目標)に向かわせる導き手ではなく、それぞれが描く多様で独自の未来に近づくためのサポーター的な存在であると思ってください。

この授業を通して、聴く・話す・読む・書くことの基礎力を身に付けるとともに、文献の探し方やレポートの書き方等を学び、みなさんが大学での学びに自主的に取り組むステップとしてください。



ここがポイント!

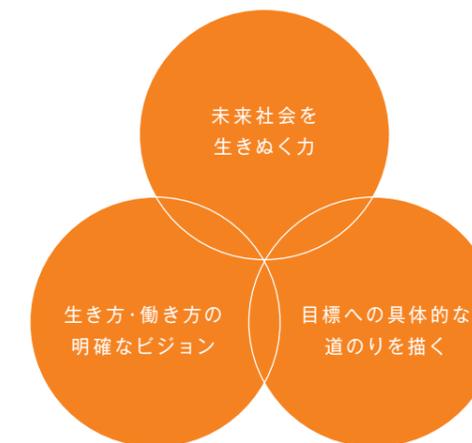
みなさんが所属している学科の専門科目もすべて基礎的な学びの延長にあります。また、大学での4年間は社会への架け橋となる重要な期間です。将来へ向けて、充実した大学生活となるよう、学びと生活のあり方を考える機会としてください。

キャリアデザインI・II

先行きが不透明な21世紀の社会を生きぬくためには、主体的に考え自主的に行動する能力が求められます。自分が大切にしている価値観を意識することが、それぞれの生き方という個性を明確にすることにつながります。この授業を通して自分の適性や価値観を知り職業選択への積極的な姿勢を養う機会としてください。

職業選択の際には、仕事を通して自分が担う役割について、明確なビジョンを持っていることが求められます。そのためには、自分自身の特徴、進もうとしている社会や業界の現実を知ることから始まります。社会で活躍している方や卒業生である先輩方の話を聞いて、求められる社会人像を理解するとともに、自己分析や自分のスキルを確認し、学修へのモチベーションを再確認してください。そして、一生を見据えて、自分の生き方や働き方について考え、目標への具体的な道のりを描いてみましょう。

「キャリアデザインII」は「キャリアデザインI」の内容を踏まえて構成されていますので、事前に「キャリアデザインI」の単位修得が履修条件となります。また、各学科により授業の構成は異なります。



ここがポイント!

社会人としての意識を高め、独立したひとりの女性として自主的・自律的な生き方を考え、また社会とのつながりを持ちながらライフサイクルを考えて、キャリアとプライベート、両方のライフプランを具体的にイメージする機会としてください。

家政学原論

家政学とは、家庭生活を中心とした人間生活と環境との相互作用について研究し、その発展に資する学問です。「家政学原論」では、その内容や歴史、日常生活や社会に対する家政学的なものの方について、幅広く学びます。当たり前だと思われる日常にも、研究対象となる学びはたくさんあることが理解できると思います。

ここがポイント! 東京家政大で学ぶみなさん、ぜひ家政学の考え方やものの方を学びましょう。日常生活を科学してみませんか。

哲学 ★

公教必

哲学は、自己、世界、他者とのあいだで繰り広げられる様々な関係(法、社会、文化、自然、言語、人間関係など)の根源を先入観にとらわれずに考え、問い続ける営みです。そのときに重要なのは、様々なものについての問いが、問いかける自己とは何なのかという問いと切り離せないことです。本講義では、自己、世界、他者について理解を深める仕方を考えていきます。

ここがポイント! 本講義は様々な哲学者たちの考えを参照しますが、単に額面通りに受け取るのではなく、自分自身でよく吟味することが重要です。

心理学

私たちは、物事を知り、感じて、考えて、行動する生き物です。しかし、この当たり前の事実の背後にある「仕組み」については、実は多くのことがまだ明らかになっていません。この授業では、この「仕組み」を、心理学の先人たちがどのように理解しようとしてきたかを勉強していきます。

ここがポイント! この授業が終わる頃には、自分自身や他者について、少し詳しくなることができます。

生活経営学 ★

保育士選

生活経営学は、家政学の一領域です。私たちの生活をお金・時間・人間関係など様々な面の総合的なマネジメントから考えるとき、個人の利益だけでなく、社会全体の持続可能性まで考慮する必要があります。家族・経済・環境・情報・福祉・サステナビリティなどを学際的に学び、我々の暮らしを主体的に考えていくきっかけとなる科目としていきます。

ここがポイント! 生活や社会を主体的に創り上げて行くための知識を、環境、経済、家族、ジェンダー、ライフデザインなど様々な視点から学びます。

家庭経営学 ★

家教必

家庭経営学は、家政学の一領域です。私たちの生活をいかに創り上げて行くかということ、利己的立場だけではなく社会の持続可能性を考慮して考えます。家庭を含めた生活は、家族・経済・環境・情報・福祉等多くの側面と切り離すことはできません。それらを踏まえ、これから私たちが自分の暮らしを主体的に考えて行けるようなきっかけとなる科目です。

ここがポイント! 私たちの生活を主体的に創り上げて行くために必要な知識を、身近なことから勉強します。

芸術論

古代から現在に至るまで、音楽、美術、演劇や舞踏等はずねに人間と共にあり、その生活を豊かにしてきました。私たちはなぜ芸術が必要なのか。そしてなぜ芸術活動をするのか。芸術作品を前にしたとき、なにが起こるのか。美術だけではなく、舞台芸術、文学などの本質にアプローチし、芸術の意味と今日の芸術の意義を考え、能動的鑑賞を学びます。

ここがポイント! 芸術作品に対峙する際に制作・鑑賞双方に必要な能動性を学び、実践に役立てることができます。

子どもの世界 ★

保育士選

子ども時代を経て成長した私たちは、その経験をもとに目の前の子どもたちを理解できるでしょうか。高度情報化社会に生まれる子どもたちにとって当たり前の「子育て環境」は、大人には前例のない「子育て環境」です。「子どもの世界」にみられる不変性と社会性・時代性を学びながら、子ども時代は人の生涯にどのように位置づけられるかを考えましょう。

ここがポイント! 大人と異なる乳幼児の感覚や認識、生活環境と繋がって形成される「子どもの世界」について学び、子どもへの理解を深めます。

人間と学びA(心と行動の科学)

知覚、記憶、思考、学習、他者の影響などに関する心理学の基礎知識を学び、日常における人の行動について考察します。私たちの記憶は正確か、どうしたらうっかりミスを減らせるか、なぜ迷信を信じてしまうのかなど、話題を取り上げ、これらに関する心理学の知見を学び、人間行動への理解を深めていきます。

ここがポイント! 授業中に簡単な実験や調査、ワークなどを実施し、日常の行動について考えながら心理学の基礎知識を学びます。

人間と学びB(学び方を学ぶ)

学ぶこと=学習は、学校だけでなく私たちの生き方と深く関わり、時代とともに大きく変わってきています。従来の知識・スキルを「蓄積する学び」から、「活用する学び」への大転換が世界中で実践されています。従来の学習観を経験と理論から振り返り、21世紀型の学習観の現在を確かめることで、これからの自分の学び方を再確認し、構築する内容です。

ここがポイント! 学ぶ意味を考え、自分自身を成長させていく視点が持てる授業です。教職志望者には、従来の学習観と21世紀型の学習観の差異を知る内容でもあります。

人間と学びC(文学と人間)

現実はあるあなたの「ことば」によって作られると言われたらびっくりしますか? そうであれば、物語を読むことは作品の世界に入り込んで楽しむだけではなく、自分自身の物語を作ることもなります。小説やファンタジーの主人公の物語がどのように語られているのか読み解く方法を学び、自分の物語として考える方法を学ぶことで、文学と人間とのかかわりについて考えます。

ここがポイント! 子どもは純粋なのか残酷なのか、時代によって考え方が異なることを、小説、ファンタジー、映画を通して読み解く方法を学びます。

ヒューマニティー

| 人間と学びD(子どもと芸術をめぐって)

芸術は人にエネルギーを与えます。この講義では、人の成長に造形表現・芸術がどのような関わりを持ち、その役割を果たすかについて、複数の講師の経験をもとに実践例等で学んでいきます。授業では主に乳幼児期の関わりについて学びます。

▶ **ここがポイント!** 子どもの成長に芸術の面で関わっている先生方に、様々な視点からその意義について講義してもらいます。

| 人間と学びE(しなやかな心とからだ)

人と人とのつながりをとりもつバーバル・コミュニケーション(ことば)とノンバーバル・コミュニケーション(ことばならざることば)に着目し、その役割や有効性といったものをプレイ、ムーブメント、ドラマといった表現活動から体感するとともに、芸術的活動が心身の成長や他者とのコミュニケーションに及ぼす創造的作用について体験的実証的に考えていきます。

▶ **ここがポイント!** しなやかな心とからだを涵養するための知見と方略を、2人の講師によるワークショップを通して探究します。

| 人間と学びF(美しい文章の書き方)

美しい文章とは、華美な装飾を施した文章のことではありません。執筆の目的や論理が明確で、書き手の思いや考えが読み手に的確に伝わる文章のことであると考えます。意見や情報を効果的に伝達する力を養い、わかりやすい文章を作成するための基礎を学んでいきましょう。授業では、自己PR、敬語を用いた手紙文、論理的な文章等を作成します。

▶ **ここがポイント!** 文章表現に関する知識と技術を身に付けることができます。じっくりと取り組んでいきましょう。



多様性を尊重し、 誰もが安心して 参加・活躍できる 共生社会を実現する力

多様な存在を互いに認め合い、多様性を活かしながら、ともに力を発揮できる共生社会の実現に向けて世界は進んでいます。日本でも同様に、多様性と共生の本質を理解し、その実現に貢献できる人材が社会のあらゆる分野で求められています。このような動向を背景として、この領域ではダイバーシティ & インクルージョン(性別、年齢、障がい、国籍、ライフスタイル、職歴、価値観等にかかわらず、多様性を互いに尊重し、認め合い、よいところを活かすこと)の考え方を中心に、人、社会、環境など多岐にわたる共生について学修し、社会でその学びを実行する力を養います。

自身の内なる偏見を省察する力

学びを通して差別や排除を見抜く力

共生社会の構成に貢献する力

身につく力

日本国憲法 ★

教必 保育士選

日本国憲法をその成立の経緯からはじめ、象徴天皇制、戦争放棄などをまず理解し、中心的内容である基本的人権を講義します。現代において、自己決定権、環境権、プライバシーの権利などの新しい権利も生まれているので、これらをできるだけ具体的な事例に基づいて考えます。自由な討論も基礎には、法的に確立した原理があると分かるように憲法の学習をすすめます。

ここがポイント! 日本国憲法の国民主権、平和主義、基本的人権の尊重などが、我々の日常生活でどのように生かされているのかが分かるようにします。

経済学 ★

社教必 公教必

経済学は現実の経済社会を分析対象とします。市場における需要と供給を取り上げ、価格や取引量が決定される過程を明らかにします。こうした市場の機能に加えて、現実の市場で生じる諸課題を取り上げ、経済政策や政府の役割を検討します。身の回りの行動が経済現象に関わっていることを認識し、経済的な視点を持つ重要性を理解します。

ここがポイント! 市場の活動を通して、資源の効率的な配分が達成されることを理解するとともに、政府や経済政策の役割を理解します。

子どもとソーシャルワーク

ケースワークの原則を活用し、ネット依存・不登校・ヤングケアラー・貧困と格差などの問題に直面する子どもたちへの支援方法を探ります。子どもたちが感じる生きづらさに寄り添い、意見対立を調整しながら、彼らが幸せを感じられるための解決策を考える講義です。

ここがポイント! 動画視聴とレスポンの回答により、他の受講生の意見や考えを共有しながら学びを深めます。

性の多様性と人権

性別、性的マイノリティ、ジェンダーを取り巻く制度的・文化的な課題を取り上げ、当事者の声や経験を通して、差別や偏見がもたらす傷つきについて理解することを目指します。社会におけるジェンダーやセクシュアリティ、ダイバーシティに関する最新の動向や課題にも触れながら、多様性を尊重し、誰もが尊厳をもって生きることのできる社会について共に考えます。

ここがポイント! 講義だけでなく、グループワーク、事例研究などアクティブラーニングの方法も用いて、実践的な知識と態度の育成を図ります。

社会と多様性 A (手話に学ぶ)

「日本手話」は、皆さんが日ごろ話している日本語とは異なる体系をもった言語です。文法的な働きをもつ顔の表情や視線などで発せられたメッセージを目(視覚)で受け取る「視覚言語」です。音声とは違ったコミュニケーション様式(モード)に慣れ、ろう文化に接することで、多文化共生社会の一員として日本手話を少しでも話せるようになることを目指します。

ここがポイント! 手話の様式(モード)に慣れ、コミュニケーションを円滑にするための手だて(ストラテジー)を身につけられるようにします。

社会と多様性 B (生老病死とケア)

老いることも死ぬことも、人間という儚い生き物の美しさです。また私たちは独りで生きているのではなく、他者たちと共に、ケアケアされる関係を生きています。本授業では、大学生の心身問題から話を始め、哲学と宗教における自己、他者、世界についての考えを学び、現代社会で直面する具体的な問題を解決していくための実践的な力を身につけることを目指します。

ここがポイント! 哲学や宗教、思想、現代社会の諸問題に幅広く関心を持ち、それらについてグループワークを通じて話し合うことができます。

社会と多様性 C (共生社会を生きる— インクルージョン)

共生社会(インクルージョン)とは、多様な人々がそれぞれの個性を生かしながら共に生きること。現実にある差別や偏見、貧困、虐待など不利益や生きづらさを知り、私たちにできることは何か、一緒に考えていきたいと思えます。国連「持続可能な開発目標(SDGs)」を意識し、「Leave no one behind(誰一人取り残さない)」活動として前期は多分野、後期は障がいに焦点を当てます。

ここがポイント! 現代社会に生じている様々な「生きづらさ」について理解し、その解決に向けて自らの意見を考え、述べるすることができます。

社会と多様性 D (人類の多様な文化)

世界各地の多様な文化を、講義と映像から学びます。文化は、人類がそれぞれの環境の中で、より良く生きるための知恵や方法の産物です。異なる文化は他者には奇異に映るかもしれませんが、当事者の立場で捉えれば、自然なものです。信仰、神話、儀礼など毎回のテーマを変えながら、他者への理解を深め、柔軟な思考を養うとともに、人間の本質を探究していきます。

ここがポイント! 様々な文化を比較の視座から学び、それらの違いから、自身のアイデンティティを再確認し、物事を客観的に捉える視野を養います。

社会と多様性 E (暮らしと法)

「暮らし」が存在すればそこには必ず法が存在します。この授業の目的は、履修者が法の基礎を理解し、法の体系性を意識し、そしてそれらとの関連で「暮らし」における具体的な事例を考えられることにより、法律学(法学)の場面で役立つだけでなく、将来的に「暮らし」や社会で役立てることができるリーガルマインド(法的思考力)の素養を身に付けることです。

ここがポイント! 身近な法的問題を考えることにより、必要な知識を獲得でき、将来的に自身のキャリアに活かせるリーガルマインドを修得できます。

社会と多様性 F (サブカルチャから見る日本)

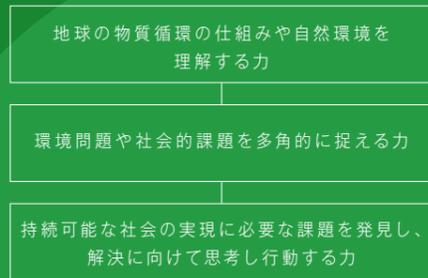
海外から見たとき、現代の日本文化を代表するものは何でしょうか。アニメ?マンガ?それともラーメン?日本の文化のフロントランナーは、今やサブカルチャであるかのように見えます。若者世代の文化を超え、国際マーケットにも進出した日本のサブカルチャをめぐって、食からクラブまで(カルチャ)全般に精通し、海外体験も豊富な講師が、新しい視点を紹介します。

ここがポイント! マンガ、映画、音楽などを通して異なるバックグラウンドの人とも交流できる、さまざまなものの見方を身につけます。



持続可能な 未来社会を創造する力

共生社会や持続可能な社会の実現に向けて、地球規模の環境問題への取組みはもちろんのこと、私たち一人ひとりが身の周りの生活環境にも目を向け、限りある資源の中でどのように暮らしていくかを考えることが求められています。そして、真に豊かな社会をさらに次の世代へつなげていかなければなりません。そこでこの領域では、自然と人間社会の調和、衣食住や身近な暮らしのテーマを中心に、生活科学、環境科学、自然科学などに関する学びを通し、社会活動や経済活動と両立させながら、あるべき未来の暮らしのモデルを構想する力を養います。



身につく力

【抽】…抽選対象科目

区分	科目名	メディア授業	単位数	必選別	標準開設年次				開設学科・専攻															
					1		2		3		4		服美	表現	栄養	管理	児学	育支	初教	英コミ	心カ	教福	社	文
					前	後	前	後	前	後	前	後												
サステナビリティ	【抽】環境共生学		2	選				○																
	【抽】SDGs入門	○	2	選				○																
	【抽】自然と暮らしA(社会とエネルギー)	○	2	選				○																
	【抽】自然と暮らしB(身近な自然に学ぶ)		2	選				○																
	【抽】自然と暮らしC(自然と倫理)		2	選				○																
	【抽】自然と暮らしD(経済と環境)		2	選				○																
	【抽】自然と暮らしE(生態系と生物多様性)	○	2	選				○																
	【抽】自然と暮らしF(資源とリサイクル)		2	選				○																
	【抽】自然と暮らしG(たしかな暮らしに学ぶ)		2	選				○																
【抽】自然と暮らしH(まちづくりと起業のススメ)		2	選				○																	

〈履修の詳細については学生便覧、時間割表などを確認してください。授業内容の詳細についてはシラバスなどを確認してください。〉

Message サステナビリティ部門長 宮本康司

持続可能な社会づくりのために、いまや誰もが考え、行動することが求められています。この領域では、地球の仕組みそのものを理解することをもとに、人間社会に生じているさまざまな問題の原因を考え、解決していける力を養うことを目指します。皆さんの日頃の暮らしにも、将来はたらく場でも、必ず役立つことでしょう。

環境共生学

20世紀後半、高度経済成長とともに発生した環境問題は、いまや地球全体のエコロジー危機にまで拡大し深刻化しています。そうしたなかで、人間社会と自然環境を一体的に捉えようとする様々な試みが展開しつつあります。循環型社会や持続可能な社会などといった具体的なテーマを取り上げながら、21世紀にふさわしい環境調和的で自然共生的なあり方を考えます。

ここがポイント！ 環境問題の現状や歴史的経緯を知り、環境と調和し自然と共生する人間の営みへ向けて多角的に思考し判断することをめざします。

SDGs入門

SDGsの17の目標を詳しく学びながら、グローバルな視点から社会の課題に目を向け、解決への糸口を探ります。この授業を通して、それら諸問題についての理解を深めるとともに、柔軟な思考力と実践的なアプローチで問題解決の方法を学びます。SDGsの基礎知識を身につけ、現実の社会問題に向き合いながら、持続可能な未来への行動を考えます。

ここがポイント！ SDGsを深く学ぶことで現実の社会課題に対して実践的な解決策を探り、将来のキャリアに役立つ知識を得ることを目指します。

自然と暮らしA(社会とエネルギー)

エネルギーの利用は社会の在り方と密接に結びついており、その選択が私たちの未来を形づくっています。本講義では、現代社会におけるエネルギー問題を広く捉え、経済や生活との関わりを考えながら、電池の基本原理や特性を化学の立場から学びます。科学と社会の関係を多角的に理解し、持続可能な暮らしを実現するための視点を養います。

ここがポイント！ 人類の運命に関わるエネルギー課題に対して、総合的な視点で理解を深めましょう。一部理科の内容も含まれますが図を多用し分かりやすく解説します。

自然と暮らしB(身近な自然に学ぶ)

暮らしの中に多くの自然があります。しかし、意外と身近にある自然に目をとめたり、それを目で楽しむ余裕がありません。そこで、この授業では、板橋キャンパスをフィールドに、自然と触れる遊びを通して自然を感じるとともに、キャンパス内の自然を把握し自然環境マップを製作します。さらに、それらで得た知識を基に、キャンパスの自然をめぐる情報を紹介する動画を作ります。これらの活動を通して、身近にある自然を発見して、めでもられるようになります。

ここがポイント！ グループワークを通して多面的に自然と触れ合います。フィールドワークを行い発見したことを視覚化します。

自然と暮らしC(自然と倫理)

現代社会は、自然に対して大きな影響を及ぼす一方で、自然から大きな恩恵を受けています。人類は人類のために自然を利用し、また人類のために人類を利用しています。そこには様々な観点から高い倫理観が求められます。講義では、豊かな人間性を養い、幅広い視点を獲得するために、倫理について多角的に理解し、倫理的な課題について自ら考えることを求めます。

ここがポイント！ 自然科学を学ぶにあたり関連する倫理的な事柄について、基本的な知識を身につけ、基本的な問題について自らの言葉で説明できます。

自然と暮らしD(経済と環境)

環境と経済は密接にかかわっています。環境と経済のかかわりを理解するための観点(主に環境経済学)を提供します。そのうえで、ごみやエネルギーなどの具体的なテーマを取り上げて、環境問題に取り組む地域の事例を確認していきます。皆さんと一緒に地域という視点で環境と経済について考えていこうと思います。

ここがポイント！ 私達はどこかの地域で生活し、環境問題もどこかの地域で起きています。地域の視点から環境と経済について考えていきましょう。

自然と暮らしE(生態系と生物多様性)

近年では人間による自然環境破壊が深刻化し、生態系存続の危機、生物多様性の減少が危惧されるようになりました。また地球の急激な温暖化が生き物の生活に与える影響も甚大です。この授業では日本の多様な自然環境と野生生物の暮らしに触れながら、生き物と人間の関係を、生物学・生態学の視点から学びます。生き物好きの方に受講をお勧めします。

ここがポイント！ 日本は、世界有数の「生物多様性が豊かな場所」です。日本の島々に暮らす生き物たちの生活を覗いてみましょう。

自然と暮らしF(資源とリサイクル)

限りある資源を有効活用し、循環型社会を実現するためには、廃棄物の適切な処理とリサイクルが不可欠です。この授業では、一般廃棄物と産業廃棄物の処理方法、容器包装・家電リサイクル法などの法制度、プラスチックや重金属の回収技術まで学びます。資源を無駄にしない社会づくりに必要な知識を、廃棄物処理の変遷や最新の課題を通して体系的に理解します。

ここがポイント！ 資源循環の仕組みからリサイクル技術まで、持続可能な社会に必要な実践的知識を習得できます。

自然と暮らしG(たしかな暮らしに学ぶ)

日常の暮らしの中で忘れられつつある大切な生活様式・考え方を、衣食住の3つのテーマから再発見し、現在の暮らしにどう活かせるかを考えていきます。衣食住をそれぞれ専門とする3人の先生によるオムニバス形式の授業です。衣はゆかたの着付け、食は出汁からつくる味噌汁、住は古民家見学といった体験的な授業として実施します。7月の日曜日には古民家見学を予定。

ここがポイント！ 3人の先生による暮らしを考える多角的総合的授業です。現代の自分たちの暮らしを今一度見つめ直していきましょう。

自然と暮らしH(まちづくりと起業のススメ)

まちづくりとは、まちの資源を活用し、まちの課題を解決したり、まちの価値を創出したりする活動のこと。また、起業とは意外と身近なもので、日々の暮らしのなかにたくさんの芽があり、そして日々の暮らしを豊かに育むもの。この授業では、とくにNPO・市民主体のまちづくりに着目し、今後のまちづくりについて考えると同時に、まちづくりにおける起業について学びます。

ここがポイント！ よりよいまちのあり方を模索していくための視点を身につけ、そうした視点で自身の生活を捉え直していくことを実践していきます。

日本事情

日本には400万人近い外国人が住んでおり、外国人との共生の時代と言われています。「日本事情」の授業では日本の社会、歴史、地理、文化、政治、経済等についての包括的な知識を、ハンドアウト、テレビ、新聞などを通して身につけます。そして、身につけた知識は、留学生や日本に住む外国人とコミュニケーションをとる際に有用で、社会比較の議論が出来るようになります。

ここがポイント! 日本人学生、留学生共に、日本について正確に伝えられる、グローバルな人材になる事を目指します。

国際関係論 I

世界で現に進行している様々な国際問題や紛争には、国際法、社会経済、科学、歴史、価値観、文化など多様な要素が複雑に絡み合った背景があります。海洋生物資源の利用と保存に関する国際問題を、SDGs、国際漁業管理、捕鯨問題、食料安全保障問題などの実例を踏まえて多角的に説明、分析し、国際関係全般に関心を持ち、理解するための知的枠組みの形成を目指します。

ここがポイント! 単純化され二者択一的に説明されがちな国際問題の真の姿を、より深く的確に理解し、自ら考え判断する能力を育むことができます。

国際関係論 II

国際関係の基本的な構造や考え方を理解し、食を切り口に貿易・外交・文化交流を学びます。食における国際機関の役割や日本食文化の海外展開、異文化理解における食の意味などを多角的に考察し、国際社会と実践的につながる視点を養います。

ここがポイント! 食を入り口に世界と向き合い、文化や価値観の違いを理解し、共に行動していきましょう!

グローバルな社会と文化 A (対人ケア職における英語と異文化コミュニケーション)

医療・看護・介護・保育・教職・児童支援などの対人コミュニケーションが発生するケアの場面において、適切なコミュニケーションを果たし、また文化的な相違に留意して国際的なキャリアを築くための英語とその背景を学び、英語力とコミュニケーション力を向上させることを目標とします。具体例に基づくディスカッションを通し、日常の中にある異文化理解を学びます。

ここがポイント! 国際化していく対人ケア職の現場において、文化差異についての理解は必須です。「伝わる」ケアを手に入れましょう。

グローバルな社会と文化 B (世界のことばと事情)

この講座では世界の主要な言語と文化に関してその諸特徴を概観できるようになります。元大使夫人や海外生活の長い文化人、また多言語話者をゲスト講師として招き、日本と当該国の生活習慣や制度上の違い、言語や価値観、コミュニケーション形態の違いなどに関する講義を通して、主体的、能動的に、より深く世界を知ろうとする知的好奇心を喚起していきます。

ここがポイント! 多文化・多言語への深い理解を目指す態度の育成を図り、物事の有り様を見定める際の観察眼、思考力を養う事ができるようになります。

グローバルな社会と文化 C (「地球の旅」身体文化に着目して)

いろいろな国や地域をバーチャルトリップします。スポーツや舞踊、しぐさや身振りなど身体に関わる文化を手懸りに比較考察し、共通点や相違点に気づき、民族衣装から風土や習慣が、民族舞踊から歴史や生活が見えるでしょう。習得した視座から自分の尺度で異文化の理解を図ります。日本の舞踊、しぐさ、表現法などの特徴についての知識も深めます。

ここがポイント! 色々な国や地域に関して知識が深まり、価値観の違う文化に遭遇しても、お互いを尊重したコミュニケーションがとれます。

グローバルな社会と文化 D (世界の宗教と社会を知る)

宗教、という語を耳にすると、現代の日本人の多くが身構えてしまうかもしれません。しかし、社会のあり方の数だけ、それに応じた宗教(的なもの)が存在していると考えるとき、様々な宗教や、宗教にまつわるキーワードについて理解しようと努める試みの意義は決して小さくないでしょう。本講座では「宗教学」の客観的な視点とともに、世界の宗教文化を検討します。

ここがポイント! 社会における宗教の様相と概要について知り、多様な文化における人々と宗教の関係について、比較しつつ学びます。

グローバルな社会と文化 E (日本人と日本文化)

国際化が進む現在において、自国の文化を知ることは、自分自身のルーツを知ることであり、他国の文化を尊重する基本です。長年に渡り我が国で育まれた文化は、現代日本の様々な文化の基になっており、気づかぬところで我々の生活を豊かなものにしていきます。絵巻・物語・祭・宗教・年中行事・遊楽を通じて、日本文化を自ら考える、体験することを学びます。

ここがポイント! 日本文化の特色について、基本的な知識を身につけ、日本文化を自らの言葉で説明し、多くの人に向けて発信する力を付けることができます。

グローバルな社会と文化 F (世界の動きと私たちの暮らし)

大航海時代、私たちの暮らしを変えるグローバル化はじまったとされます。それは産業革命を経て、21世紀の今日、国際経済を中心に世界の動きに影響を与えています。新しい格差、インターネットとコミュニケーション、航空産業と人々の移動は、私たちの暮らしの風景をどのように変えるのでしょうか?グローバル化と日本との関係について学びます。

ここがポイント! 国際社会や国際経済の視点から、グローバル化と世界、さらには、昭和、平成、令和へと至る日本の歩みについて学びます。

Message グローバル・コミュニケーション部門長 三宅ひろ子

世界には、驚くほど多様な言語や文化、暮らしがありますが、その多様性は、実は日本の中にも息づいています。外国にルーツをもつ人々や地域ごとに異なる価値観・生活スタイルなど、「日本らしさ」さえ生まれ変わっています。AIの時代だからこそ、言葉のぬくもりと多様な世界を学ぶワクワクを感じてみましょう!

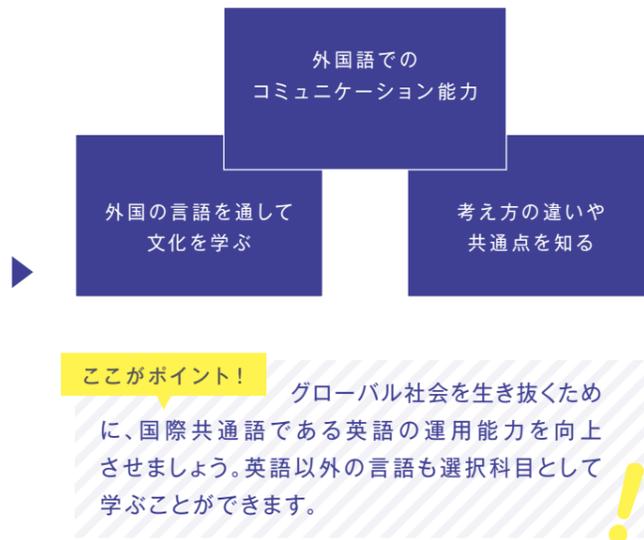


外国語科目

講義名▶ 英語Ⅰ A・B ★／英語Ⅱ A・B ★／英語上級 A・B／語学研修A・B・C・D・E・F／ドイツ語初級・中級・上級／フランス語初級・中級・上級／中国語初級・中級・上級／コリア語初級・中級・上級／短期ドイツ語・フランス語・中国語・コリア語研修／日本のことばと文化Ⅰ A・B／日本のことばと文化Ⅱ A・B

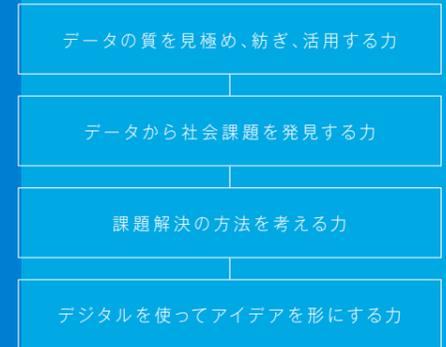
コミュニケーションは不可欠であり、社会活動を円滑に行うにはその能力が強く求められます。特にグローバル社会においては、誰もが有る程度の英語力と多様性に対応できる力を身につける必要があります。また、言語を通して文化を学ぶことができるよう、英語以外にも外国語科目を用意しています。アジア圏の言語やヨーロッパの言語も学ぶことで、それぞれの文化の違いや考え方の違い、共通点を探してみましょう。

「語学研修A・B・C・D・E・F」「短期ドイツ語・フランス語・中国語・コリア語研修」はグローバル教育センターの主催する語学研修に対応した科目となっています。研修先で外国語によるコミュニケーションの実践的な力を養います。「日本のことばと文化」は留学生の必修科目です。



社会課題に取り組み、新しい価値を創造する力

〈データサイエンス×デザイン〉では、さまざまな現代社会の課題解決に活かすための知識・技能および思考力・判断力・表現力を学びます。情報通信技術は日常生活などさまざまな場面でデータを収集することを可能としました。データサイエンスは、データから有益な情報・知見を引き出す学問分野です。この領域では「東京家政大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム(MDACK: Mathematics、Data science、AI Certificate program in Kasei)」を利用した科目を開講し、データを正しく読み解き、活用する力を養います。一方で、データから得た知見を課題解決に活かして新しい価値を創造するためには、アイデアを具体的なカタチにし、表現する力(デザイン思考的アプローチ)も必要です。デジタルツールを活用しながらアイデアをカタチにする思考力・技能も育てます。そして、データサイエンスの視点と、デザイン思考的アプローチの交差による、DX時代のリテラシーを身につけることを目指します。



身につく力

英語関連科目

- 英語ⅠA・英語ⅠB(必修)** 英語コミュニケーション能力と、グローバル社会において柔軟に対応する姿勢を身につけます。特に、話す(発信)・読む(受信)のスキルをバランスよく学びます。
- 英語ⅡA・英語ⅡB(必修)** 英語コミュニケーション能力と、グローバル社会において柔軟に対応する姿勢を身につけます。特に、書く(発信)・聞く(受信)のスキルをバランスよく学びます。
- 英語上級A・B(選択)** ⅠA・ⅠB、ⅡA・ⅡBで習得した英語力を基盤とし、英語の情報を素早く処理する能力を高め、就職活動に役立つ英語の資格取得に挑戦できる力を養います。

その他の外国語

- 英語の他に選択科目として4つの外国語科目があります。
- 初級(選択)** コミュニケーションツールとして用いることができるように、基礎を習得します。あわせて文化・社会・歴史への関心を高めます。
 - 中級(選択)** 「初級」で習得したことをより深め、様々なトピックについて簡単なやりとりができる力を身につけます。また、文化・社会・歴史への理解をより深めます。
 - 上級(選択)** 「初級」「中級」で習得したコミュニケーション力を高めるために、より発展的な学習を通し、様々なトピックについてディスカッションができる力を身につけます。

語学研修A～F (※学生による履修登録はできません。履修登録は研修参加決定後にグローバル教育センターが行います。)

英語でコミュニケーションする実践的な力を身につけるための海外研修です。A～Cは夏期休業中および春期休業中に実施する1か月の短期語学研修です。Dは前期もしくは後期に実施する約半年の語学研修、Eは前期および後期に実施する約半年の学部留学、Fは前期・後期に実施する約10か月の語学・専門研修です。D～Fは選考があります。資格や卒業の時期などにも影響しますので、必ず所属学科と十分に相談のうえ応募してください。

AI基礎

AI(人工知能)は作業の効率化だけでなく、医療や教育分野の発展など、私たちの社会を大きく変えつつあります。一方で、雇用のあり方や倫理・プライバシーといった新しい課題も生まれています。本授業では、AIが社会にどのような影響を与えるのかを幅広く学ぶとともに、Pythonというプログラミング言語を使って、機械学習や生成AIなどの仕組みを体験的に学びます。

ここがポイント! 体験的な学習を通して、AIを自分の専門分野や将来の仕事にどのように活かせるかを考える力を身につけていきましょう。

数学基礎

微分積分、線形代数はデータサイエンスとも関連のある数学だけではなく、自然や社会の現象を数理的な視点から記述し、理解するために必須です。そこで本科目ではそれら諸概念の学習から応用事例をみるのではなく、自然や社会の応用事例を数理的な視点から理解するために概念、道具として、数学の基礎を学びます。公式や計算は最小限にとどめて概念理解が中心です。

ここがポイント! 数学は道具としての有用性だけではなく、それ自体が美しい体系をもった学問領域です。このことをお伝えしたいと思います。

デザイン思考A

社会には、さまざまな制作物や商品があります。どのような思考のプロセスで実際の「売れる」モノや「役立つ」モノが出来るのでしょうか?この授業では、デザイン思考やそれに関連する論理を学び、実際に制作を行います。3Dプリンタや生成AIを活用して、制作やプレゼンテーションを行っていただきます。

ここがポイント! アイデアをすぐ形にして試す重要性や面白さを体験できます。実際の制作物を通して周囲の賛同を得る力を身につける事ができます。

デザイン思考B

動画コンテンツは人に行動するきっかけを与えたり、時には世の中を変えてしまう力があります。どのような思考のプロセスや手段でそれらのコンテンツが出来上がるのでしょうか?この授業では、デザイン思考やそれに関連する論理を学び、実際に制作を行います。動画編集ソフトや生成AIを活用して、動画の制作およびプレゼンテーションを行います。

ここがポイント! 動画作成やカメラワークの基本を学び活かす体験ができます。実際の制作物を通して周囲の賛同を得る力を身につける事ができます。

データサイエンス演習 令和10年度開講予定

データサイエンスと社会A(情報社会とライフスタイル)

社会の変化を表すキーワードとしてSociety 5.0があります。また、人々に多様な考えをもたらしているベースとなるものに持続可能な開発目標(SDGs)があります。Society 5.0とSDGsをキーワードとして、私たちのライフスタイルに変化をもたらしている、社会変化と人々の考え方の多様化について、学びます。

ここがポイント! Society5.0と呼ばれる情報社会が向かう社会、SDGsへの取組を通して持続可能な社会の構築を意識した生活・ライフスタイルについて説明することができます。

データサイエンスと社会B(メディア情報と社会を読み解く)

現代社会を生きる私たちは、日々多様なメディアと関わりながら、生活をしています。この講義では、インターネット、SNS、テレビ、広告という4つのメディアに関する実際の事象をとりあげ、各事象の背後にあるメディアの特徴や人間の心理・行動について、社会心理学等の知見を援用しながら、グループワークを通して考えていきます。

ここがポイント! メディアを介した情報を適切に理解する力や、メディアにまつわる社会現象を読み解く力を高めていきます。

データサイエンスと社会C(ロボットと人工知能)

ロボットや人工知能が日常生活に現れるようになりました。あなたの生活はどう変わっていくのでしょうか?便利になる部分、思ったほどの効果がない部分、様々に分かれていきます。これからどのような社会的問題が起こると思いますか?社会や生活の今後を予測するためにも、技術の成り立ちを知り、また社会受容の歴史をふりかえってみましょう。

ここがポイント! ロボットや人工知能と一緒に暮らしていくとはどういうことなのか、考えてみませんか?

データサイエンスと社会D(ヘルスデータサイエンス入門)

一般的な偏頭痛や意識障害をはじめ、日常生活のさりげない行動が引き金となり発症する脳卒中(脳出血や脳梗塞)などを対象に、前半では脳関連の疾病・症状についての一般教養を学修し、後半では実際の医学的なデータを使って初学者でも取り組める統計解析を学びます。脳卒中は介護要因の第2位でもあり、身近な疾病に対する理解を深めるきっかけとなる科目です。

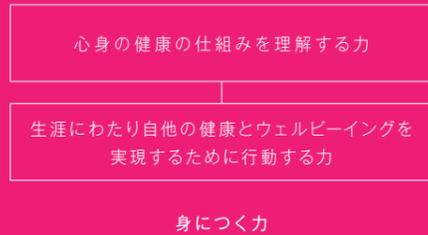
ここがポイント! 日常生活のなかで身近な医学的教養の習得を目的として、繰り返し学修できるフルオンデマンド形式の科目です。



人々の心身の健康と ウェルビーイングを 実現する力

SDGsの目標の一つに、人が生活する中で直面するさまざまな課題に対して自分ごととして向き合いながら幸せに暮らし続けていくために「Good Health and Well-Being」が掲げられています。〈ヘルス&ウェルビーイング〉領域で、この目標をもとに、多様化する価値観の中で一個人が「健康であること」「幸せと感ぜられること」について意識できるようになること、その状態を続けるために行動できるようになることを目指した科目群です。この学びは、個人だけではなく、個人と社会、個人と環境との間でも成り立つものです。

また、「体育関連科目」には、講義科目と実技科目があります。生涯にわたり、体力・健康を維持し、スポーツや運動を有意義な形で日常生活に取り入れ、健康で豊かな人生を送るための知識と方法を習得することができます。



【抽】…抽選対象科目

区分	科目名	メディア授業	単位数	必選別	標準開設年次				開設学科・専攻															
					1		2		3		4		服	表	栄	管	児	育	初	英	心	教	社	文
					前	後	前	後	前	後	前	後	美	現	養	理	学	支	教	コ	カ	福	会	化
ヘルス&ウェルビーイング	【抽】女性の健康		2	選				○																
	【抽】いのちと生活		2	選				○																
	【抽】生命科学	○	2	選				○																
	体育と健康		1	選				◇																
	からだとスポーツA		(1)	選	○																			
	からだとスポーツB		(1)	選		○																		
	自然とスポーツA		(1)	選			○																	
	自然とスポーツB		(1)	選			○																	
	【抽】ウェルネスA(食育のすすめ)		2	選				○																
	【抽】ウェルネスB(ウェルビーイングと対人関係)		2	選				○																
	【抽】ウェルネスC(心のレジリエンス)	○	2	選				○																
	【抽】ウェルネスD(脳科学に学ぶ)	○	2	選				○																

〈履修の詳細については学生便覧、時間割表などをご確認ください。授業内容の詳細についてはシラバスをご確認ください。〉

女性の健康

女性が生き生きと自分らしく、自らのベストパフォーマンスを発揮して生きていくことができるように、心身の健康について学びます。授業のテーマは多岐にわたり、疾病についての知識はもちろん、ヨガなどの統合医学、労働環境の問題なども取り上げます。この科目で身につけた力を自らの健康に活かすと同時に、周囲の大切な人の健康にも役立ててくれることを期待しています。

ここがポイント！
自分の体調の変化や悩みを、自分でしっかり把握して、必要な時には専門家のアドバイスを受けることができるようになります。

いのちと生活

この講義では、科学的な視点で、原子レベルから分子、細胞、組織、個体、地球レベルまで、さまざまな階層での“生物(いのち)”と“生活”との関係について系統的に学び考えていきます。特に我々ヒトを含む哺乳類における脳の発生・発達・老化について深く学び考えることで、脳の可塑性(記憶)や精神・神経疾患の発症メカニズムを系統的に理解することを目指します。

ここがポイント！
“いのち”と“生活”との関係について系統的に学び、今生きていることの奇跡を感じ、かつ人にも伝えられるようになります。

生命科学

生き物は食糧を食べてエネルギーとして生きています。微生物からヒトに至るまで全ての生き物が基本的に同じ生き方をしています。そこで生命活動をつかさどるためにどのようにエネルギーを得て栄養として生きているのかを基礎的なことから学びます。さらに生物にはいろいろな生き物がいますのでそれらも学びます。

ここがポイント! 食べ物からエネルギーを獲得するための方法として、消化、酵素を使っています。これらの物質がどのように機能しているのかを学びます。

ウェルネスA(食育のすすめ)

食育とは「人をよく育て、生きる力を養う教育」であり、全世代が対象ですが、特に幼児期から青年期にかけての食育が重要とされています。生きる基本である「食」のあり方について、自らの食歴を「振り返り」、食に関わる様々な因果関係に「気づき」、食育のニーズについて「考え」、食の行動変容までの過程を「企画」し、「実践」するまでに一連の流れを学びます。

ここがポイント! 食育の現場で活躍する卒業生をはじめ、農業女子、エコロジスト等をゲストスピーカーに迎えたオムニバス形式で展開します。

ウェルネスB(ウェルビーイングと対人関係)

社会生活を営むうえで、人は少なからず他者との関係を持つことになります。良い人間関係は生活を豊かにし、上手いかない人間関係は大きなストレス源となってしまいます。対人関係は個人の心理的健康と深く関わってきます。本科目では、対人関係に影響を与える心理学的な視点に基づく知識と技術を学び、ウェルビーイングを実現する力を身に付けます。

ここがポイント! 対人関係について心理学的な視点に基づいて知識を身につけ、体験を通して対人関係に関するスキルの活用を目指します。

ウェルネスC(心のレジリエンス)

レジリエンスとは、人が落ち込みから回復する力や、逆境の中で適応できる力を表す概念です。レジリエンスの研究や測定方法を学び、レジリエンスを促進するための介入技法について体験的に学びます。自らのレジリエンスの理解、および個々人のレジリエンスの多様性について理解したうえで、実際に身近な他者のレジリエンスを理解することを目指します。

ここがポイント! レジリエンスの概念およびその多様性を体験的に理解し、自分自身の心や他者の心の理解に応用することができます。

ウェルネスD(脳科学に学ぶ)

脳はこころの源です。みなさんが見たり、聞いたり、感じたり、考えたりすることはすべて脳が作り出すこころの機能です。私は心理学者として、脳とこころ(行動)の関係について研究しています。本講義では、主に動物を研究対象として明らかになってきた脳とこころの関係について、記憶、愛情、依存、共感性などを中心に、最近の研究知見に基づいてお話しします。

ここがポイント! 心理学的な観点から脳についての話をしますので、生物学の知識がなくても理解できます。理系科目は苦手という人でも大丈夫です。

体育関連科目

講義名▶ 体育と健康 ★/からだとスポーツA・B ★/自然とスポーツA・B

講義科目として「体育と健康」、実技実習科目として「からだとスポーツA・B」、「自然とスポーツA・B」で構成されています。これらの科目は生涯にわたって皆さんがスポーツや運動を有意義な形で日常生活に取り入れ、健康で豊かな人生を送るための知識と方法を習得することを大きな目標としています。

ここがポイント! すべての人が、みんな楽しく体を動かす授業。友達も増えます。思い切り体を動かして、心も体もスッキリ!

具体的な目標

- 1 体力を維持増進し、健康を管理する習慣を獲得するために必要な知識や態度を学びます
- 2 運動やスポーツの楽しさを再確認し、身体や心への効果を実感します
- 3 充実した大学生活を送るために社会的な規範を学び、学生同士あるいは教員との円滑なコミュニケーション力を形成します

講義科目

体育と健康(選択)

生涯を通じて活力あるライフスタイルを形成するための理論と実践方法を学び、心身の健康習慣を身につけます。

教選必 保育士必

実技実習科目

からだとスポーツA・B(選択)

目標1 健康管理習慣の獲得
目標2 楽しさを確認して積極的にとりくむ姿勢
目標3の1 社会的規範を守る
目標3の2 円滑なコミュニケーション

教選必 保育士選必

ボールゲーム、テニス、バドミントン、卓球、ボディメイク、レクリエーションスポーツ等

自然とスポーツA・B(選択)

自然環境を利用したアウトドアスポーツを取り上げ、集中実習形式にすることで学内では経験できない内容を展開します。

キャンプ、スクーバダイビング、スキー・スノーボード

※「自然とスポーツA・B」は定員があり、希望をしても抽選になることがあるため、履修できないことがあります。1年次の12月に事前参加予約登録会がありますので、希望者は必ず出席しましょう。

※教職課程履修者は「からだとスポーツA・B」および「体育と健康」の3科目(3単位)中、2科目(2単位)以上選択必修です。また、保育士課程履修者は「体育と健康」(1単位)必修、からだとスポーツA・Bは1科目(1単位)以上選択必修です。

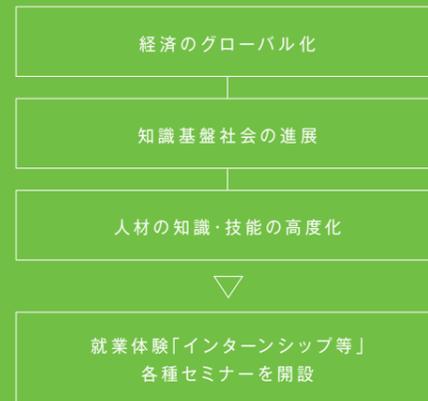
Message ヘルス&ウェルビーイング部門長 北澤健文

この領域には、私達の心身への理解を深める科目や、皆さん自身の生涯にわたるヘルスとウェルビーイングの実現に必要な知識や技能を、具体的に習得できる科目が揃っています。ヘルスは充実した生活をおくるための資源として、皆さんの将来にも欠かせません。是非、ここの学びを将来の皆さんの原動力にしていきたいと思います!

自分を知り、社会を知り、 共感型リーダーシップを 身につける

全学共通教育科目のコア科目においては、建学の精神「自主自律」、生活信条「愛情・勤勉・聡明」について考え、大学でどう学び・社会でどう生かすのかについて学んでいきます。そして、それらの学びと並行して、社会でより実践的に楽しく生きていくための人間力を身につけることが人間力育成実践科目の目的となります。

「キャリア形成支援講座」では、学生は自分の将来像と社会・職業の関係を学び、自らの志を持って進むべき道を確認なものにし、そのための資質・能力を備えることを目指します。この目的のために、実際に就業を体験する「インターンシップ等」、そのための準備や振り返り、新たな目標設定の場として事前指導や事後プログラムを開設しています。「実践力養成セミナー A・B」では、これからの社会において、重要となる共感型リーダーシップを身につけることで人間力の向上を計ります。Aではレクリエーション、Bではチームづくりの活動を通して養成していきます。



キャリア支援課では、みなさんが将来、希望する進路にすすめるよう、就業体験「**インターンシップ等**」への参加をサポートしていますので、ぜひ参加してください。以下指定の講座やプログラムの受講、インターンシップ等への参加、条件を満たし報告書を提出することで、「キャリア形成支援講座」のポイント(単位)を取得することができます。

インターンシップ等とは

学生が在学中に、企業などにおいて自らの専攻や将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと。

インターンシップ等の目標

- ① 社会のしくみを理解する
- ② 働くイメージを持つ
- ③ 自分の強みと課題を明確にする
- ④ 就業体験を通じて、大学での学びの重要性を知る

- 01** **事前指導** **事前指導への参加**
 実習に向けて心構えやマナーに関して学ぶ。
 〈全体講義〉 manabaで動画を視聴し、レポート(A4で1枚)を提出。
 〈実践〉 事前予約制。先着順。複数日開催のため、選択して1回参加。
 - 02** **実習願** **実習願提出**
 参加するインターンシップ等の内容を大学に届け出る。
 ※実習願を提出することで、入学時に加入している保険が実習中にも適用される。
 - 03** **実習** **インターンシップ等実習**
 ・5日間以上及び35時間相当以上。
 ・実習中は毎日「実習日誌」を作成し、担当者に確認してもらう。
 - 04** **事後プログラム** **事後プログラムへの参加**
 実習を経て、学んだことを学生間で共有し振り返りを行う。
 - 05** **書類提出** **実習日誌・報告書提出**
 ・実習中に作成した実習日誌を提出する。
 ・事後プログラム後に配布するキャリア形成支援講座報告書を提出する。
- ★★ここまですべて満たすことで15ポイント取得となる★★**
- 06** **履修登録** **15ポイント取得後、原則として翌年に履修登録する**
 科目名：キャリア形成支援講座
 ※単位認定を受けられるのは在学期間で1度のみ。
 ※キャリア形成支援講座対象のインターンシップ等に参加できるのは1～3年生。
 - 07** **単位取得** **2単位が得られる**
 成績は合否で判定。

※インターンシップ等についての詳細は、インターンシップガイダンスに参加し確認してください。
 ※授業・実習等により講座やプログラムに参加できない場合は、必ず事前に申し出てください。

人間力育成実践科目 ▶▶▶ 実践力養成セミナー A1期 (レクリーダー養成) 実践力養成セミナー A2期 (レクリーダー養成)

この授業は、「楽しさを体験する」時間と「楽しさを組み立てる」時間で構成されています。まず参加者として様々なレクリエーション種目の楽しさを体験しましょう。次に、その楽しさをふりかえりながら構造を理解し、指導者の立場から組み立てて相手に贈る方法を学びましょう。この授業は、教員(幼小中高栄養養護)を目指している人、こどもたち、お年寄り、ハンデのある方を対象としたボランティアに参加する人には特にヒントになるプログラムです。なお、この科目の単位はCAP制の対象外です。

☆1 授業日程および履修上限

第1期:9月2日(水)~4日(金)100名
第2期:9月7日(月)~9日(水)100名
*3日間で14回授業相当分を展開します。

☆2 履修者の決定について

抽選科目ではないため、履修登録後に高学年優先で、1期100名・2期100名に受講人数を制限します。1期か2期を選んで登録してください。選抜結果は5月第2週以降に名簿を発表します。その名簿にて参加の可否を確認してください。また、必修の実習や集中授業と重なる場合は体育学研究室木村のところまで相談に来てください。

授業計画			
	1日	2日	3日
1	楽しさを体験する アイスブレイクゲーム	楽しさを体験する ニュースポーツ	楽しさを体験する ウォークラリー1
2	楽しさを組み立てる アイスブレイクの仕組み	楽しさを組み立てる ニュースポーツの理念	楽しさを体験する ウォークラリー2
3	楽しさを体験する GWT*	楽しさを体験する クラフト工作	楽しさを組み立てる ウォークラリー振り返り
4	楽しさを組み立てる GWTの振り返りと仕組み	楽しさを組み立てる クラフトの楽しさを理解する	各レク財(種目)の振り返り レクリーダーの視点
5	アイスブレイクゲームと GWTの振り返りとまとめ	ニュースポーツ、クラフト の振り返りとまとめ	振り返りノートの作成

*グループワークトレーニング

授業の到達目標

- 1 様々なレクリエーション種目の楽しさを体験する。
- 2 レク支援の仕組みを学ぶ。
- 3 レク種目の指導方法を学ぶ。

人間力育成実践科目 ▶▶▶ 実践力養成セミナー B (ファシリテーター養成)

ファシリテーションとは、グループワークや意見交換が円滑に進むように舵取りをすることです。ファシリテーションによってメンバー間の相互作用を高め、ありがたい状態へ導くことが可能です。この授業ではファシリテーターに必要な基本スキル(アイスブレイキングの活用等)、問題解決の効果的な進め方、仲間の強みを引き出すポジティブなチームづくりを体験学習の形式で楽しく学びます。チームづくりに興味がある人、教員をめざす人、企業で活躍したい人におすすめの授業です。

授業計画 (夏期休暇中の集中授業を予定しています)*全14回(3日間実施)

	1日	2日	3日
1	ファシリテーションとは	ファシリテーションスキル① :傾聴・承認・質問のスキル	ポジティブなチームづくり :概論、導入事例の紹介
2	ワークショップ体験① GW:レゴを使うゲーム	ファシリテーションスキル② :合意形成(拡散と収束)	ワークショップ体験① GW:ペアインタビュー
3	ワークショップ体験② GW:体を動かすペア演習	模擬ファシリテーション① GW:問題解決を促進する	ワークショップ体験② GW:ストーリー共有、内省
4	ワークショップ体験③ GW:意見を整理する	模擬ファシリテーション② GW:グラフィックを活用する	全体のふりかえり・まとめ
5	体験のふりかえり 「アイスブレイクの効果」	体験のふりかえり 「ファシリテーターの役割」	

*GW:グループワーク

授業の到達目標

- 1 グループワークの効果的な進め方をゲーム形式で楽しく学ぶ。
- 2 ファシリテーションの基本を理解し、問題解決を促進できる。
- 3 みんなが主役になれるポジティブなチームづくりを学ぶ。

人間力育成実践科目

〈Kポイント8〉

自らの興味関心に基づき 主体的に動く

現代は、AIをはじめとした科学技術が急速に発展し、モノや情報があふれ、価値観が多様化しています。このような社会の中では、何が重要かを自らの意思で判断し、適切に取捨選択していく力が求められます。〈Kポイント8〉では、一人ひとりの興味関心に基づく主体的な活動を通して、総合的・横断的な知識、多様な思考法、学びのスキルを身につけることを目的としています。すでに興味関心のある活動に参加しても良いですし、これまではあまり参加したことのない活動にチャレンジしてみることも可能です。また、この科目では1~4年次にかけて必要なポイントをためることで単位の修得を目指します。いつ・どの活動に参加して何ポイントを取得するかなど、自己管理能力や計画性の向上が期待できます。

主体的に考え、行動する

自らの興味関心を大切にする

新たな価値と出会う

01

活動
開始前

行動計画を立てる

- ①manabaの「Kポイント8」のコース登録をする。(p37参照)
- ②manabaのコースコンテンツに掲載されている「Kポイント8」の当該年度の講座内容一覧およびポイント認定フローを確認し、卒業年度の12月までに活動を終了できるよう、計画を立ててください。
*講座内容の詳細は、講座内容一覧に記載されている[担当部署]に確認してください。

02

活動
終了後

- ①活動記録を作成する
K-PORTにログインし「Kポイント8」の「記録(2025年度以降の活動)」に活動記録の入力および参加証明書類等をアップロードしてください。
- ②ポイント判定申請をする
K-PORTへの活動記録入力後、manabaの個別指導コレクションより、ポイント判定申請をしてください。
*ポイント判定の期日は活動した年度の12月中です。
- ③ポイント判定結果を確認・合計ポイント数の反映をする
manabaの個別指導コレクションにポイント認定完了の連絡を受けたら、K-PORTにログインし、判定結果を確認してください。確認後、「認定された合計ポイント数」に加算して反映してください。

03

履修
登録

履修登録をする

注意事項 誤って履修登録した場合、履修登録の削除はできませんのでご注意ください。

大学1~3年生 >>>

8ポイント貯まった翌年度の履修登録期間に、各自履修登録をしてください。
*8ポイント貯まる前に履修登録をしないでください。(成績が「不合格」となります)

大学4年生 >>>

卒業学年でポイントを満たそうとする場合のみ、ポイント取得前に履修登録期間に、各自履修登録をしてください。
*8ポイントを満たすことが見込めない場合、履修登録をしないでください。(成績が不合格となります)

04

単位と
成績

単位・成績を確認する

履修登録した年度の後期成績を確認してください。

単位 全学共通教育科目 **1単位**(単位認定を受けられるのは1度のみです)

成績 成績は、「合格」と表記されます。ポイントを満たせなかった場合は、「否」と表記されます。

注意
事項

- 参加証明書類などの原本は、必要に応じて提出を求められる場合がありますので、卒業するまで各自大切に保管してください。
- 部署主催の講座において、別途参加申込が必要となる講座もあります。
- 授業を欠席しての活動は認められません。
- 全学年が学生教育研究賠償責任保険に加入しています。
「Kポイント8」として行ったボランティア活動は、単位認定を受けた後に保険の対象となります。保険の利用を希望する場合は、学生支援課までご相談ください。
- 講座内容(中止を含む)やポイント認定申請方法等については、その年度の社会情勢や大学の方針により変更になる場合があります。manaba等で最新の情報を各自確認してください。



manabaの「Kポイント8」コース登録をしましょう。

※左画像内のオレンジ線をご確認ください

登録キーを使用して、科目を登録します。

- 01 My Campusから「Kポイント8」のmanaba自己登録キーを確認します。
- 02 マイページから「登録キーを用いて登録」をクリックします。
- 03 「Kポイント8」の登録キーを入力します。
- 04 コース名:全学共通教育科目「Kポイント8」を確認し、間違いなければ「登録」をクリックします。

マイページから >>> コーストップページへ

- 05 ログイン後、マイページのコース一覧からコース名:全学共通教育科目「Kポイント8」をクリックするとコースのトップページが表示されます。
- 06 コースコンテンツやコースニュースにて随時情報を掲載していきますので、各自ご確認ください。

ログアウト

- 07 マイページ上部右上の「ログアウト」をクリックします。

※共同で利用するパソコンを使う場合は、ログアウトを徹底して下さい。ID・パスワードが悪用される恐れがあります。また友人であってもトラブル防止のためID・パスワードの貸し借りはしないでください。



教職課程科目 | 一覧表

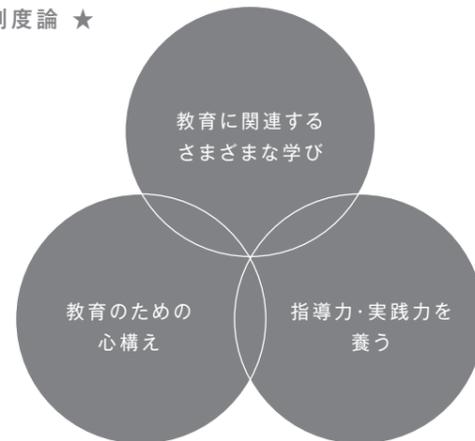
区分	科目名	単位数	必選別	標準開設年次								開設学科・専攻									
				1		2		3		4		服美	表現	栄養	管理	児学	育支	初教	英コミ	心カ	教福
				前	後	前	後	前	後	前	後										
教職課程科目	児童学科 教育原論	2	選		○									○	○						
		2	選		○										○	○					
	初等教育学科	教育原論	2	選		○										○					
		教職基礎論	1	選	●											○					
		教育心理学	2	選		○										○					
		教育制度論	2	選				○								○					
	共創デザイン学部 栄養学部 人文学部	教育原論	2	選		○				○	○	○	○				○	○	○		
		教職基礎論	1	選		●				○	○	○	○				○	○	○		
		教育心理学	2	選		○				○	○	○	○				○	○	○		
		教育制度論	2	選				○		○	○	○	○				○	○	○		

（履修の詳細については学生便覧、時間割表などを確認してください。授業内容の詳細についてはシラバスなどを確認してください。）

教職課程科目

講義名 ▶ 教育原論 ★ / 教職基礎論 ★ / 教育心理学 ★ / 教育制度論 ★

教育職員免許状の取得にかかわる科目のうち「教育原論」「教職基礎論」「教育心理学」「教育制度論」の4科目を全学共通教育科目としています。教職を志望する学生は1年次に教職課程の履修登録をしたうえで、これらの科目を必ず履修し、自身の教師としての適性をみる機会としてください。本学では、子どもに対する深い愛情と教職に対する情熱とともに、豊かな感性、高い見識および卓越した指導力・実践力を有する教師の養成を目指しています。そうした教師を目指して一歩ずつ着実に取り組んでいきましょう。



ここがポイント!

教職課程の単位としても全学共通教育科目の単位としても数えることができます。あなたの教師としての適性をみる機会としてください。

全学共通教育科目の相談・質問はこちらへ

全学共通教育推進部

窓口：百周年記念館1階 受付時間：平日9:00~17:00 / 土曜日9:00~12:00

※夏期・冬期休業中の受付時間は別途提示します。

メールアドレス:gakkjimu2@tokyo-kasei.ac.jp

電話番号:03-3961-5624